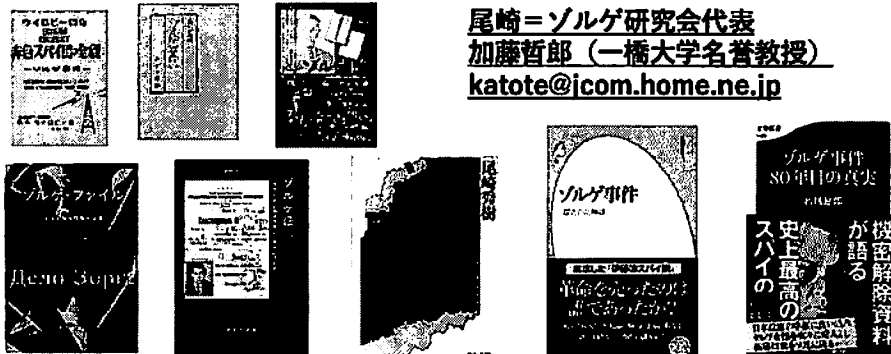


尾崎秀実＝リヒャルト・ゾルゲ没後80周年記念国際ワークショップ 2024.11.7-8  
「ユーラシア大陸の秩序再編とインテリジェンスをめぐって」  
愛知大学人文社会学研究所＋尾崎＝ゾルゲ研究会＋ユーラシア財団共催 於：拓殖大学

## 基調報告1 ソルゲ事件研究の現段階



尾崎＝ゾルゲ研究会代表  
加藤哲郎（一橋大学名誉教授）  
katote@jcom.home.ne.jp

## 本日の報告要旨

(1) ソルゲ事件の学術的研究は、1964年のソ連におけるゾルゲの名誉回復の頃に始まった。それまでは、戦後すぐの時期に尾崎秀実の獄中書簡「愛情は降る星の如く」の一時的ベストセラーがったが、冷戦の始まりと共に、日本の特高警察資料をもとにGHQ・G2のウィロビー少将の指揮下で作られた米国陸軍省報告、いわゆるウィロビー報告が基本資料だった。さまざまなスパイ物語が語られ、映画や演劇、小説でも描かれた。

(2) それが、1960年の岸恵子主演日仏合作映画「真珠湾前夜」、ソ連宇宙飛行士ガガーリンの来日、キューバ・ミサイル危機などを契機に、ソ連におけるフルシチョフ政権末期にゾルゲの名誉回復・英雄としての復権が行われた。日本では、1962年にみず書房から特高警察資料中心の「現代史資料」1-3巻が刊行され、アメリカでは1964年にウィロビー報告とは異なる視点からチャルマーズ・ジョンソンの尾崎秀実論が出て、当事国の関係史資料が部分的に公開され、学術的研究が可能になった。そこから「スパイもの」の物語に加え、学術書・ドキュメンタリーも刊行されるようになった。

(3) 21世紀に入ると、中国やドイツでも新資料が現れ、旧ソ連の軍事史料もロシアで公開されて、フェュシンの資料集やアレクセエフの研究が現れた。日本では、特高警察の「現代史資料」全4巻に加え、思想検察の太田耐造文書「ゾルゲ事件史料集成」全10巻やアジア歴史資料センターの公文書公開が加わった。米国のウィロビー報告も、米国国立公文書館（NARA）のナチス戦争犯罪記録及び日本帝国政府記録情報公開で補充され、バージョンアップした。これらのすべてが、現代の若い世代による新しい研究の出発点になる。

2

## 配付資料＝2023年5月明治大学登戸研究所講演

- 1 ソルゲ事件をめぐる情報戦の現在
  - ・はじめに——AIでゾルゲ事件は解けるか？
  - ・AI・IT技術はどこまで事件に迫れるか？
  - ・世界からの新資料によるゾルゲ事件の再検討
  - ・戦後日本のゾルゲ事件イメージ——「反戦平和の尾崎たち」から「赤色スパイ団」へ
  - ・伊藤律発覚端緒説からの訣別を——覆される通説もありうる
- 2 いま、なぜ、ゾルゲ事件の再考か——「すべての資料を疑え」
  - ・ブーテンのロシアにおける「愛国者」ゾルゲ・チーム
  - ・資料公開——米日官憲資料とロシア交信資料650件
  - ・英語圏における実証的研究の進展
  - ・分裂した東西ドイツのゾルゲ像
  - ・日露歴史研究センターの功績と遺産——伊藤律冤罪立証と国際ネットワーク構築
- 3 情報戦としての尾崎＝ゾルゲ研究
  - ・1942年5月16日司法省発表から始まった情報統制・世論誘導
  - ・占領期の情報戦——戦後日本のゾルゲ事件イメージの出発
  - ・1950年代大衆文化としての「マスターズパイ・ゾルゲ」
  - ・1960年代「現代史資料」刊行とソ連でのゾルゲ名誉回復——大衆文化から歴史研究へ
  - ・伊藤律発覚端緒説は破綻し、松本清張本は公式訂正、遺族の苦難の手記も本に
  - ・1941年独ソ開戦と日本御前会議南進情報の二大争点化
- 4 おわりに
  - 新段階でのゾルゲ事件研究の論点と争点
  - ・ゾルゲの1941年独ソ戦・日本南進情報——A・フェュシン『ゾルゲ・ファイル』の意義
  - ・情報戦とインテリジェンス研究の対象としてのゾルゲ事件
  - ・特高警察中心「現代史資料」と思想検察の「ゾルゲ事件史料集成：太田耐造関係文書」

## 配付資料に入らなかった日本の最近の研究



4

## ドイツ・ハイデルベルグ大学のトマス・カンペン博士から



5

## 日露歴史研究センターの功績と解散

●白井久弥・渡部富哉ら日露歴史研究センターの貢献に学ぶもの

①『偽りの烙印』での「伊藤律端緒説」批判の画期性と方法

②ゾルゲ事件から中共諜報団事件・満洲合作社事件・満鉄調査部事件への視野拡張（米共産党・企画院事件・横浜事件にも）

③野沢房二・木元伝一・光永源槌ら周辺からの新資料発掘

④国際シンポジウム・翻訳集・講演会等ネットワーク構築



6

Issue 01 / March  
尾崎=ゾルゲ研究会 通信 創刊準備号01

尾崎=ゾルゲ研究会 通信 創刊準備号01



二〇二二年二月七日正式発足  
事務局 愛知大学 旧東亜同文書院

7

## ロシアにおける「愛国者」ゾルゲ・ブーム

ー多磨霊園ゾルゲの墓のロシア大使館移管、遺品のアジア地図はGRUへ  
<[https://drive.google.com/file/d/1rMRnVWwUQT5tg8S5QIBDNrUyjdjeeohPT/view?usp=drive\\_web](https://drive.google.com/file/d/1rMRnVWwUQT5tg8S5QIBDNrUyjdjeeohPT/view?usp=drive_web)>

●ロシアTV大河ドラマ  
(2018-19、石井花子原作)

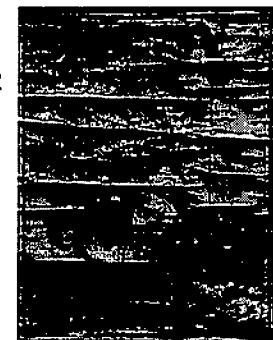


●多磨霊園ゾルゲの墓  
(石井花子から駐日ロシア大使館  
管理へ、19年10月記念式典)



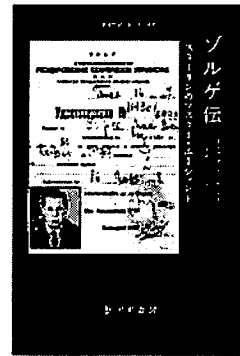
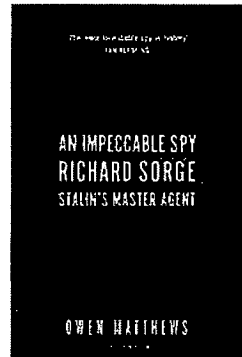
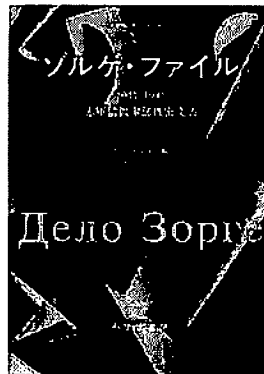
●ゾルゲの遺品「アジア地図」は日本から  
FSB（諜報庁）経由、GRU（国防省）へ

1941.10ゾルゲ逮捕時部屋に  
遺品として取調官吉河光貞に  
戦後吉河家遺族から志賀義雄家  
遺族・日露歴史研究センターに  
2008年頃加藤哲郎鑑定・返却  
渡部富哉からフェンションへ  
2020 FSBからGRUへ贈呈式



8

プーチン大統領は2020年10月7日の68歳の誕生日、タス通信とのインタビューで「高校生の頃、ゾルゲのようなスパイになりたかった」と告白した。



9

## 新聞報道

## 新事実



10

I ズルゲ事件の学術的研究は、1964年のソ連におけるゾルゲの名誉回復の頃に始まった。それまでは、戦後すぐの時期に尾崎秀実の獄中書簡『愛情は降る星の如く』の一時的ベストセラーだったが、冷戦の始まりと共に、日本の特高警察資料をもとにGHQ・G2のウィロビー少将の指揮下で作られた米国陸軍省報告、いわゆるウィロビー報告が基本資料だった。さまざまなスパイ物語が語られ、映画や演劇、小説でも描かれた。

- ① 戦前日本の事件報道は1度だけ、関係者以外にはほとんど知られていなかった。
- ② ただし内務省は捜査記録を残し、司法省は昭和天皇へ上奏した記録がある。
- ③ 戦後すぐの時期の松本清張による獄中書簡『愛情は降る星の如く』編集・公刊が日本民衆の最初のイメージ、主人公は尾崎秀実で国際主義=愛国主義。
- ④ 1949年2月米国陸軍省報告=ウィロビー報告が「赤色スパイ」物語の始まり、東西冷戦・朝鮮戦争・核実験・ベルリンの壁
- ⑤ 石井花子・川合貞吉らの証言、尾崎秀樹の伊藤律告発、松本清張・ブランゲ

11

11

## 戦前の事件報道は目立たぬ1回のみ

- ①朝日新聞1942年5月17日司法省発表  
毎日2018年8月18日 ↓ 朝日12月25日 ↓



12

## 思想検察＝御前会議情報漏洩・国防保安法の追及

- ・ 1941年中は、上海・東京コミンテルン諜報団人脈・軍事情報の一般的追及（ゾルゲの1-33回 訊問は司法警察官大橋秀雄＝ゾルゲ第一手記、沖国大大橋文書、34-47回から検事吉河光貞 [42.2.10-3.27]
- ・ 42年1月警視庁外事課「ゾルゲの蒐集せる情報要旨」事項羅列中に、「尾崎・宮城・オットより7月2日御前会議情報」入手の項目有り
- ・ ソルゲ1942.3.13第42回検事訊問(吉河)「所謂近衛グループへの政治工作」
- ・ 3.17第43回検事尋問(吉河)「尾崎の7月2日御前会議情報報告、情報出所は近衛公刺近から」[みすず①pp.287-289]
- ・ ソルゲ・尾崎の「日本南進の謀略」(大橋p.183)「政策企画活動」の可能性浮上  
→「上奏の必要」(参考：横浜弁護士会「ゾルゲ事件判決を読む」1997)
- ・ 42.1.12(110-13)東京地裁検事局より司法省「ゾルゲ事件取締状況」に尾崎の御前会議情報は朝日の田中慎二郎ではなく西園寺から、
- ・ 尾崎1-19回司法警察官訊問(41.10.15-高橋与助)では第11回42.2.25手記に西園寺の「御前会議決定」。3.6第17回で西園寺から「御前会議の内容」、3.11第19回で「日本の南進」。
- ・ 3.8第22回玉沢光三郎検事訊問で昭和研究会、4.1第26回で西園寺訊問調査確認、4.14第27回「国体・天皇制」尋問＝尾崎は天皇打倒不要説(41年治維法改正で、「国体変革」「私有財産否認」に加え「国体否定、皇室ノ尊厳ヲ冒瀆」も対象に  
・ 特高警察は「国家機密」に立ち入れず、思想検事が西園寺・犬養直接訊問。西園寺は「国家保安法」「軍機保護法」違反で3.16から、3.30「尾崎との関係、御前会議情報提供」承認、4.4から犬養軍機保護法→「日本法理」から「上奏の必要」(5人+西園寺・犬養のほか、治維法抜きの軍機保護法は、秋山幸治・田中慎次郎・後藤憲章・海江田久孝・磯野清、西園寺の情報源・藤井茂海軍中佐はなし)

## 1942年5月13日昭和天皇へのゾルゲ事件上奏文(加藤「解説」＝ネチズンカレッジに全文)

「帝国の対ソ政策、特に対ソ戦計画の有無・可能性」

### ● 4項目重点事項

- ①ソ連邦に重大なる影響を及ぼすべき帝国陸軍及空軍の増強並に編制督に關する事項
- ②帝国の対支政策
- ③帝国の対米英外交政策
- ④帝国と独逸国との諸關係

## ●漏洩事項7項目

- ①昭和十六年七月二日開催せられたる御前会議の決定事項
- ②政府大本営連絡懇談会の議に付する為内閣に於て準備したる日米國交調整に關する事項
- ③独ソ開戦に關するヒットラー總統の意圖及開戦予定日
- ④昭和十六年六月二十三日開催の軍事參議院會議及同年八月下旬開催の軍首腦部會議の内容
- ⑤滿洲國に於ける帝国陸軍の編成、裝備及配備状況
- ⑥日独防共協定及三国軍事同盟の経緯
- ⑦大日本帝國中華民國間基本關係に關する重要事項並に所謂日華國交調整に關する「内約」

## 5.11「上奏文案」と5.16「司法省発表」の落差

- ①42年3月司法省「ゾルゲ事件概要」の天皇に伝えるべき最重要点
- ②「ソ連赤軍」ゾルゲ、「内閣囑託」尾崎等5人+「内閣兼外務省囑託」西園寺、「衆議院議員」犬養。北林トモ、スメドレー、オット駐日ドイツ大使等の名も入っている
- ③「赤軍4部」からソ連党中央へ
- ④「重点」4項目、「漏洩」7項目を明記し、7/2 御前会議が最重要
- ⑤西園寺・犬養は重大だが「情を知らずして」尾崎を「愛國有為の士なりと誤信」
- ①上奏文を換骨奪胎・抽象化した防諜広報、有識者自肅自戒要請
- ②「コミンテルン情報局員」ゾルゲ、「満鉄囑託」尾崎等5人+無肩書・西園寺「衆院議員」犬養のみ
- ③すべてコミンテルン・共産党で親善国「ソ連」「ドイツ」は無し
- ④「我国情に關する秘密事項」が「不逞団体」に漏洩、防諜注意
- ⑤西園寺・犬養は「尾崎の極めて巧妙な偽装に幻惑」され「不用意」に「利用せられ」たるもの

## 「事件公表資料」にみる新聞検閲・報道統制

- (208) 5月11日付「国際諜報団事件に關する發表要項(案)」(小尾俊人1962年『現代史資料』月報3)に全文掲載、ただし日付が5月17日とされている)から、
- ・ (207-212)5月9日「刑事局長談」から11日「司法当局談」、12日「司法内務両当局談」文案10種異文
  - ・ 5月12日「司法省発表」5種異文、13日大審院検事局、14日外務省意見
  - ・ (213) 5月16日「新聞記事掲載要項」トップ不可、4段組以下、写真不可(『毎日新聞』2018年8月18日付にの全文掲載済み)
- 成文＝5月17日朝刊記事(1962みすず1巻) 小尾俊人は發表文を「6月16日」と誤記、以後踏襲する

- ・ この過程で修正・抹消されたもの＝検閲・報道統制の事実そのもの、内容的には、
- ①ソ連・赤軍・独逸大使館等削除
- ②北林トモ・スメドレー等削除
- ③重点4項目・漏洩7項目削除
- ④「ゾルゲ及尾崎等に於ては単に諜報活動に止らず我國の政策を左翼に有利に展開すべく企画策動」という諜報団の能動性・謀略性を示す文案はすべて削除
- ⑤「神助による慶賀」削除
- ⑥外務省意見による西園寺「内閣兼外務省囑託」削除から、尾崎も「内閣囑託」削除「満鉄囑託」のみへ

戦後日本のゾルゲ事件イメージの出發＝尾崎秀実獄中書簡から  
GHO・G2ウィロビー報告（1949年2月陸軍省発表）へ



### 衆人の同意と知財



- ・尾崎秀実「愛情はふる星のごとく」1946ベストセラー  
 戦平和の愛国者」反ファシズム的戦士」ソルゲ・ト反  
 ・1948年2月米国「マッカーシズム」日本「逆  
 コーパス」開始期に「マッカーシズム」報告による「ソ連  
 の赤色スパイ」ソルゲ諜報団告発  
 ①英産経「上野の陰謀」のようにもと中露内戦  
 ②尾崎秀実「へる島の陰謀」のようにもと中露内戦  
 ③ソ連は1964年の「大祖国戦争の英雄ソルゲ」まで沈  
 黙：赤色スパイ事件」伊藤律端緒説」の定着



## GHQによるゾルゲ事件捜査と米本国の「赤狩り」

● 政治犯を積極的に受入れたのは、民主化を進めた米軍に代表される。政治犯を積極的に受入れたのは、民主化を進めた米軍に代表される。政治犯を積極的に受入れたのは、民主化を進めた米軍に代表される。

[illegible]

●1945年10月24日 東京のソ連領事館員からの連絡で「フリッツ(クラウゼンの別名)がソ連に渡った」という情報が得られる。1945年12月クラウゼンはソ連軍用機でウラジオストクに到着した。

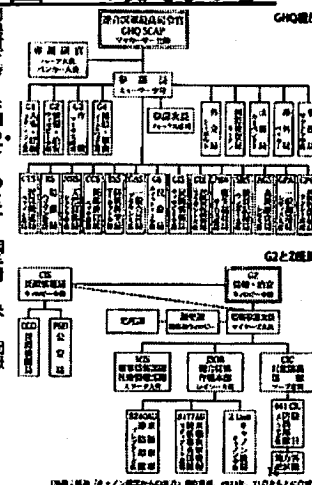
●1946年春 ソープが得(CIS)配下のT・Pディビシス中佐は「ソルゲ事件」の都立情  
を、日本司法官庁に送る。1947年6月 CISはソルゲ機関の結核菌、  
輸入ルートなどを作成。

●1947年8月5日 民間情報局ポール・ランシュ作成資料報告書（白井久也編『米  
国公文書 ソルゲ事件資料集』社会評論社、2007）

●1947年12月16日 民間情報局のH・Tノーブル博士執筆の「ソルゲ・スパイ団の捕縛における国際情報網の一例の研究」が、伊藤俊の関与を含めて、「民間情報網の例」23頁に引用。カナダの国策スパイ事件（グレンコ事件）の教材に。

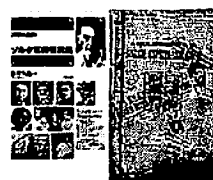
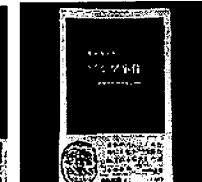
●1948年6-7月米国での非米活動委員会、米国大使館員のソ連での情報活動非難に対する補償材料として、日本における共産主義情報事件を「ソ連が米政府内にと

●1949年2月10日陸軍省発表、在英スエドレーの抗議でポール・ラッシュが川台  
皇古組、伊藤達の名を挙げ、2万円で氷蜜井欄盗用エージェントに。



## GHO・G2 ウィロビー報告の役割

――マッカーシズムのさなか、菅本光子とポール・ラッシュが作った日米イメージの原型

[illegible]

II 転換点=それが、1961年の岸恵子主演日仏合作映画『真珠湾前夜』、ソ連宇宙飛行士ガガーリンの来日、キューバ・ミサイル危機などを契機に、ソ連におけるフルシチョフ政権末期にゾルゲの名誉回復・英雄としての復権が行われた。日本では、1962年にみすず書房から特高警察資料中心の『現代史資料』1-3巻が刊行され、アメリカでは1964年にウィロビー報告とは異なる視点からチャルマーズ・ジョンソンの尾崎秀実論が出て、当事国の関係史資料が部分的に公開され、学術的研究が可能になった。そこから「スパイもの」の物語に加え、学術書・ドキュメンタリーも刊行されるようになった。

- ① 平和共存から再冷戦・諜報合戦を背景に、ソ連でゾルゲの名誉回復とゾルゲ資料の部分公開、ソ連崩壊後に本格的公開
- ② 日本における『現代史資料』公刊、『尾崎秀実著作集』、尾崎秀樹の上海調査、渡部富哉らの日共北京機関・伊藤律端緒説批判など
- ③ ディーキンズストーリー、ワイマントらの英文研究、プランゲに対抗するチャルマーズ・ジョンソン、東独のソーニャ証言・マダーの研究

21

## 1960年代『現代史資料』刊行とソ連でのゾルゲ名誉回復——学術的研究の基礎資料に

見  
は、ヨ  
が、贈  
チ、名  
如、号  
が、を  
を、名  
名、号  
譽、を  
回、を  
復、を  
——学  
術、的  
的、研  
究、の  
基  
礎、資  
料、に



22

22

## 岸恵子発案の映画『真珠湾前夜』1961の役割

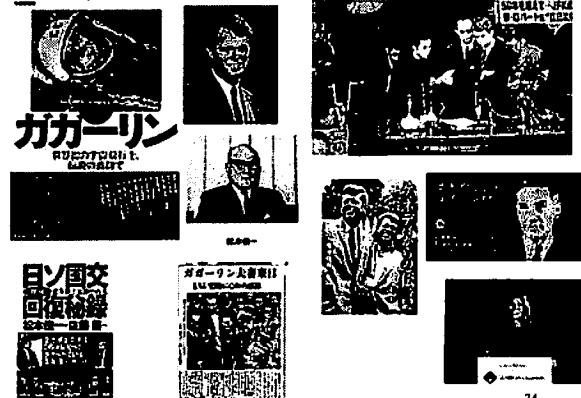
- ・ 最近刊行された『岸恵子自伝』（岩波書店、2021年）によれば、当時の夫であったイヴ・シャンド監督にゾルゲ事件の映画化を提案したのは主演女優になった岸恵子自身であった。1961年に欧州で封切られ評判になった『Qui êtes-vous, Monsieur Sorge?』（邦題『スパイ・ゾルゲ/真珠湾前夜』、松竹1961）は、一旦モスクワ国際映画祭出品が税関検閲で拒否されたが、時の在日ソ連大使が直接クレムリンに持ち込み、1964年秋フルシチョフ第一書記によるゾルゲの名誉回復、「ソ連邦英雄」称号授与につながった。
- ・ ソ連でも映画は大ヒットし、夫妻はフルシチョフの招待でソ連国内を旅することができた。ただし映画の内容は、ゾルゲの反ファシズムに感動した岸恵子の企図とは裏腹に、「思想的に正反対」の脚本によるメロドラマになってしまったという。
- ・ つまり、岸恵子がいなければ、そもそもこの映画はこの世に存在しなかった。ソ連におけるゾルゲの名誉回復や再評価もその文脈に照らして見ることができ、プーチンがこの映画をみてKGB諜報員を志したともいわれ、ソ連のインテリジェンスにとって重要な意味を持った。



23

## 背景=1962.2月R・ケネディvs.5月ガガーリン来日 1962.10キューバ・ミサイル危機と米ソ情報戦激化

1961.5 U2機撃墜、平和共存の陰り  
1961.4ガガーリン「地球は青かった」  
1962年2月、米国司法長官ロバート・ケネディがライシャワー大使のいる日本へ、早稲田大講堂で60年安保後の学生たちの抗議を受ける。  
1962.5-6 イワノフ証言：5月社会党他超党派でソ連宇宙飛行士ガガーリン来日、大隈講堂で大歓迎。自民党松本俊一議員（リベラル派外交官、日ソ国交回復時全権代表、岸内閣内閣官房副長官）から、なぜソ連はゾルゲを忘却したのかとゾルゲ諜報団を紹介され、感激したガガーリンは、フルシチョフに伝え、調査委員会活動開始  
1962.10 キューバ危機で核戦争危機  
=米ソ双方で諜報の役割増大  
1964.10 ソ連のゾルゲ公認・英雄視



24

24

# 軍歌同志ゾルゲТоварищ Зорге

作曲: V.ムラデーリ (Мурадели, Вано Ильич)  
作詞: B.ドヴォルヌイ (Дворный, Борис)

日本で活動し刑死したソ連のスパイ、リヒャルト・ゾルゲに関する1964年の歌です。ソ連は戦後も長らく事件への関与やスパイの存在を否定してきましたが、1964年9月4日付の『プラウダ』・『イズベスチヤ』両紙で突如その生涯が世に明らかになりました。直後から一大宣伝キャンペーンが始まり、多数の出版物、歌、戯曲、オペラが作られ、11月5日にはゾルゲにソ連邦英雄の称号が与えられました。

ナチスとの戦いを裏から支えた英雄の存在がプロパガンダ上好都合であった事はもちろんですが、当時西側では既に通俗映画(日仏合作映画『スパイ・ゾルゲ』1965年)などの題材として事件が周知の事実となっていたという事も、事件の公表を後押ししたとされています。

宇宙飛行士ガガーリンが1962年の来日で初めてゾルゲの存在を知り、政府上層部に対し公表を働きかけたという興味深いエピソードも伝わっています。

- ・ 静寂の空の下、夜の静寂の中 日本のはるか、星の上で 男が夢に覚えている ロシアを、太陽の下は驚かすモスクワを
- ・ 広き草原の野を ゴルゲの白馬を夢見て 遠き異国の地で 祖国の鳥、同志ゾルゲは生きた
- ・ 病んだ心臓の拍く静かに 血潮がコールサインを上げ 時はロシアと公認する 死と隣り合わせの夜に
- ・ 時には怒りを笑みで隠し 絶望深く何処でも警戒し 異国に在っても祖国の鳥、その身を預けし同志ゾルゲ
- ・ 最後の時まで真面目に、力強く 地球の平和の鳥、死へと向かっていった 鳥なるロシアの夢を抱きつつ 不祥の現況となったのだ

## 駐るオペラ「リヒャルト・ゾルゲ」

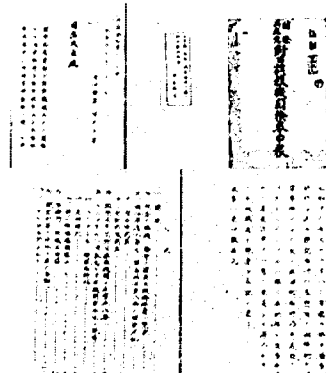
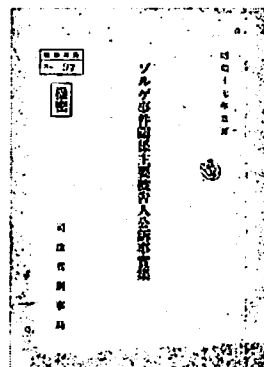
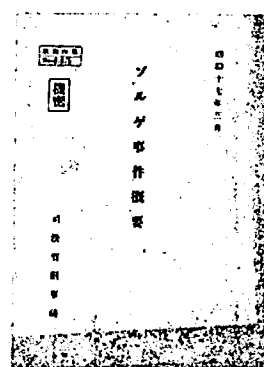


「ロシア・ピアノイズムの贈り物」(みすず書房、2014年)の著者でベルリン在住のピアニスト原田英代さんの祖父、ドイツ国籍のソ連在住者であったOskar Vendelinovich Heylfus (1933-1981)は、作曲家、音楽教師で、対独戦勝利30周年の1975年に、オペラ「ゾルゲ」を作曲し上演した。リブレットはカザフスタンの民族詩人オルジャス・スレイメノフ。ドイツに亡命する1980年までは、幾度か上演された。しかし作曲者は1980年に東ドイツに、1981年には西ドイツに移住した直後に交通事故で不審死。ソ連・ロシアでオスカー・ハイルフェスの名前は隠れ、彼の作品は劇場、テレビ、ラジオ、ミュージカル・ディレクターのレパートリーから即座に削除された。

・しかし、ソ連から独立したカザフスタンでは生きていた。オジャス・スレイメノフ 台本 オスカル・ゲイリフス 作曲のオペラ「ゾルゲ」は、2021年5月18日にオジャス・スレイメノフ85歳祝賀コンサートでアバヤ国立バレエオペラ劇場歌手エミール・サカポフが歌う。

25

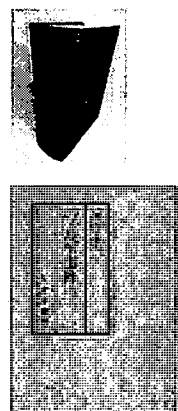
1942年3月司法省「ゾルゲ事件概要」+西園寺・犬養5月「公訴事実集」=6月10日「検挙申報」=8月『特高月報』「ゾルゲを中心とする国際諜報団事件」→1957警察庁「外事警察資料」→62「現代史資料」第1巻巻頭



26

## 日米対ソ諜報共有のための戦後版『外事警察資料』第3巻5号1957.1 (みすず書房『現代史資料』全3巻、1962の原型)

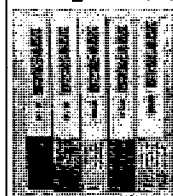
・ 米国立公文書館 (NARA) 所蔵CIC「関三太郎スパイ」は、1955年の警務庁資料第1巻第2号「関三太郎及びP-K1403事件」がそれに入っている。第1巻第2号は、第2巻第3号まで、日米通関がかわらない



・ 54年1月にはラストボロフ事件発覚。警視庁公安課作成「外事警察資料」1969年4月に資料はソ連代表部ボロフが米国CIAに供述した36人の実名がある。これの現物はなにも残っていない。この図書の力がある。この図書の力がある。この図書の力がある。

27

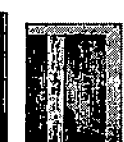
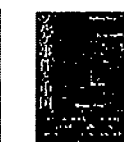
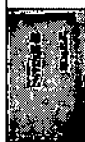
1970-80年代 独ソ戦情報と日本御前会議南進情報の争点化、伊藤律生還と端緒説への疑問、多様な関係者登場、「スパイ」の政治的評価



伊藤律 1980.9 帰国



1993



1977-79/89

1974

1967/88

1975/84

1976

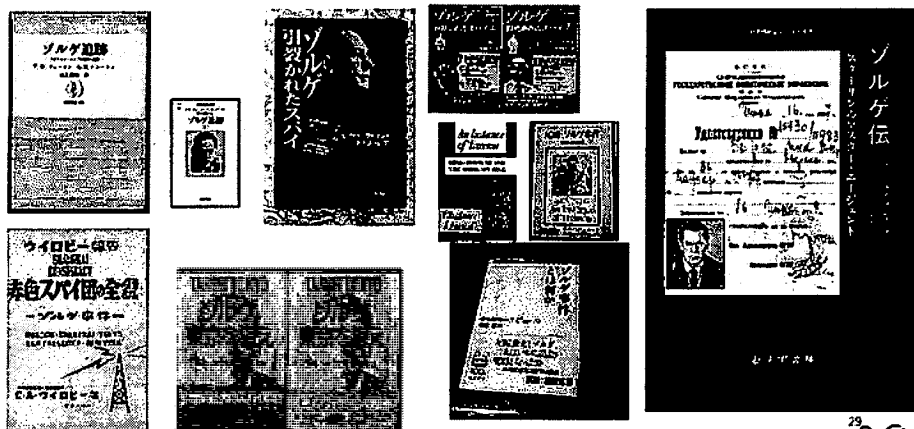
1980

1997-2000

28



1966ディーキン=ストーリー⇒1996ワイマント⇒2020マッシューズ



29

- ① 冷戦崩壊後のソ連からの資料公開で独ソ戦・三国同盟・日中米戦争を含む本格的な研究が可能に
- ② 日本でも、米国公文書館文書や太田耐造思想検察資料などで新たな研究の条件、日露歴史研究センターの国際ネットワーク組織
- ③ 中国での楊国光・蘇智良らによる新資料発掘、統一ドイツにおける理論家・ジャーナリストを含むゾルゲの全体像研究、スエドレー、ブーケリッチ、宮城与徳・鬼頭銀一・矢野勉らの個人研究、陳翰笙・方文も

30

## 日露歴史研究センター、渡部富哉の周年



31

1964名誉回復 ソ連崩壊電文90通新公開⇒フェシュン191文書⇒アレクセイエフ3巻⇒

1930-45年 650点  
1941-45年 201点

01点 32





② 日米英露に加え、分裂した東西ドイツのゾルゲ像再統一、中国では21世紀に入って「上海のゾルゲ」発掘、映像・文学の役割



2 1 5  
351440435  
144042914  
514404251

## ゾルゲの全体像の再構築＝マルクス主義理論家・ジャーナリストとしての再発見

The List of Published Works by Dr. Richard Sorge  
June 2021 Prof. Tetsuro KATO(公開文書約300点)



1. Dr. Sorge funkelt aus Tokyo von Julius Mader, Gerhard Stuchlik, Horst Pehnert (Berlin, 1986) and by Kiyotomo Ishido in Japanese (現代史料4, Tokio 1971)

2 Jörg Becker, 43 Artikel von Richard Sorge in der „Bergischen Arbeiterstimme“ 1921-1922

3 Julius Mader in der DDR, 16記事 in ドイツ報新開1930-1932

Seine Artikel in der Berliner „Deutschen Ostsee-Zeitung“ sind er meist ungezeichnet, oder er versah sie nur mit solchen Verweisen wie „Jo (Johnson) und sie (Ika).“

4 RichaRichard Sorge's 231 articles in Frankfurter Zeitung 1936-1941,

collected by Prof. Erich Pauer at Marburg University

5 In Japanese, Katsuba/Kitamura/Ishido eds.

豊原元・北村喜雄・石堂清俊『リヒアルト・ゾルゲ 二つの危機と政治』御茶の水書房, 1994

(松田健男「尾崎秀実著作目録」には、今井清一作成「著作目録」、『開戦前夜の近衛内閣』(青木書店)等に未収録のものを含め、新聞・雑誌掲載344篇・座談会3篇収録  
<http://ymatsuda.kill.jp/Ozaki-mokuroku.pdf>)

37

38

## ゾルゲ、福本和夫、コルシュ、ルカーチの出会い (マルクス主義研究週間、1923、ゾルゲが書記)

Martin Jay『弁証法的想像力』1973初版(1922イルメナウ)→1996第二版(1923ゲラベルグ)→八木紀一郎『20世紀知的急進主義の軌跡』=ルカーチ、コルシュ、福本等を組織した初期ゾルゲ



20世紀 知的急進主義の軌跡



Fuhrer Otto Kasso drückt die Hand des Ausbeuter, Schmarotzer, Schmeichele, stehend (von links): Hilde Gumpert, Friedrich Potvin, Eduard Ludwig Alexander, Konrad Zickler, Georg Lukács, Adolf Gumpert, Richard Sorge, Karl Alexander (Horn), Fritz West, unbekannt, sowie links (von links): Karl August und Rosa Wittkop, unbekannt, Christiane Sorge, Karl Kopp, Hedda Kopp, Fritz West, Margarete Lissauer, Gila Pogoril, Gertrud Alexander

○ナチズム

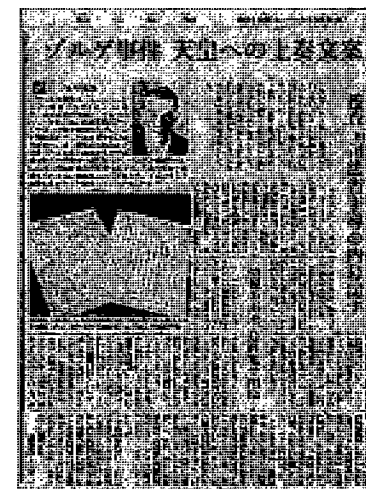
39

## インテリジェンス研究素材としてのゾルゲ事件 (2019.11.5朝日)

- 日露歴史研究センターの高齢化・解散、
- コロナ・パンデミック下のメディア支配・学術会議攻撃・警察公安国家の行く末を知るために、
- 映画「新聞記者」(内調)「スパイの妻」(731軍機保護法)の間うもの=国家機密とは

- 1 インテリジェンス=国策をめぐる情報戦、「情報評価」の重要性
- 2 インテリジェンス・コミュニティの多頭制(polycracy)と主導権争い=特高vs検察
- 3 戦時防諜「1940年体制」の中での意味(内務省主導・執行の治安維持法と、司法省主導の国防保安法・軍機保護法)

[加藤編『ゾルゲ事件史料集成』全10巻、不二出版]



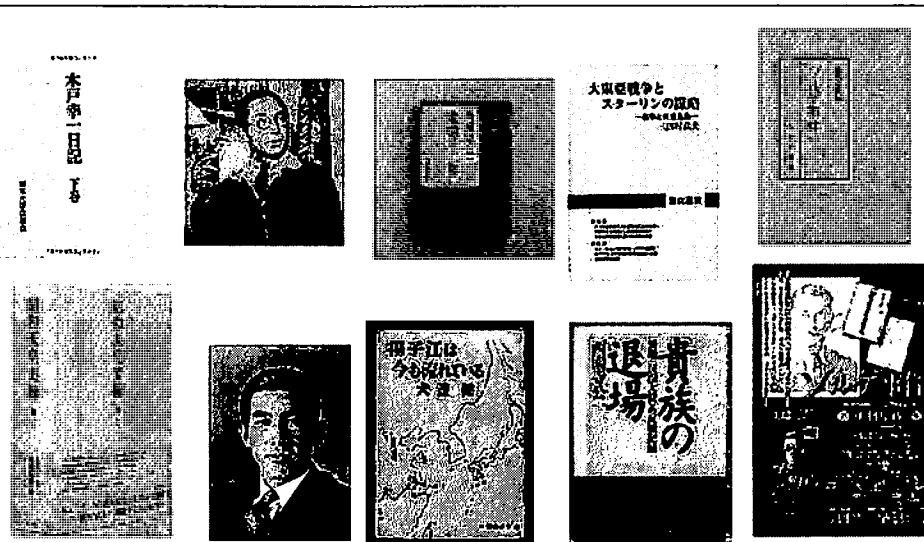
40

### ③ 特高警察『現代史資料 ゾルゲ事件』と思想 検察『ゾルゲ事件史料集成：太田耐造関係文書』

- ・みず『現代史資料』は印刷史料
- ・1-3巻は警察庁警備部『外事警察史料』3巻5号(1957)1547頁の再編集
- ・両者の重複は、警察・検察訪問調査などが、意外に少ない。
- ・外国人被告ゾルゲ・ブーケリッヒ・クラウゼンの訪問記録は、みず『現代史資料』で、太田の1942年9月満洲国訪問のため裁判・判決文は『現代史資料』で、両者は併用すべき基礎資料
- ・太田耐造はゾルゲ事件に適用された、
  - ①治安維持法②国家保安法③軍機保護法④軍用資源移転法⑤国家公務員法⑥日本国憲法⑦日本国憲法の施行令⑧国家公務員法⑨国家公務員法施行令⑩国家公務員法施行令
- ・特高警察は思想検事の指揮命令下の法的な手続きにより、ゾルゲ事件の真相を明らかにした。国家公務員法の施行令により、ゾルゲ事件の真相を明らかにした。国家公務員法の施行令により、ゾルゲ事件の真相を明らかにした。

- ・「太田耐造文書」は手書き・和文タイプのオリジナル
- ・「思想検事」太田耐造のコレクション、2017年総政資料室公開
- ・昭和天皇への「上奏文」内務省「ゾルゲを中心とする国際諜報事件」の検察審査会による審査・成・敗、各種憲章に修正・普及・コメント等あり
- ・外務史料、日共再建運動、中共諜報団事件など、周辺史料も「太田耐造関係文書」に多くの事例
- ・「上奏文」作成経緯、新聞発表文の経緯等から、ゾルゲ事件の真相を明らかにした。国家公務員法の施行令により、ゾルゲ事件の真相を明らかにした。

41



42

### 国際情報戦研究との結合



43

### ④ ゾルゲの中国論と中国の尾崎ゾルゲ研究

ゾルゲに中国人協力者

(産経新聞2007.4.16)

“ゾルゲ事件”対日工作 中国人工作員が関与  
【上海＝前田徹】20世紀で最も成功したスパイ事件とされるリヒャルト・ゾルゲの対日スパイ網構築が当時、ソ連コミンテルンに属していた中国人工作員によって行われていたことを示す自信が見つかった。自信は文化大革命で迫害を受け失明した著者が革命秘話として書いたものだ。上海でゾルゲから直接、対日工作を指示されたことや日本では近衛内閣顧問の尾崎秀実（ほつみ）と協力していたなど事件の貴重な裏話がつつられている。

著者は著名な経済学者で中国国際文化書院院長をしていた故・陳幹生氏で、問題の自信は「四个時代的我」（四つの時代の私）だ。同書は1988年に7000部出版されたが、一般市販されず大半が散逸している。

・ゾルゲの上海時代における中共中央特科周恩来・潘漢年らとの関係

・スメドレー、ソーニャ、尾崎、中西功・水野成ら東亜同文書院グループとの関係

・顧順章事件、ヌーラン事件、魯迅、潘漢年

・1933年にモスクワで書きかけた中国論原稿

・中共諜報団事件、満鉄調査部事件、企画院事件、横浜事件等への影響

・汎太平洋労働組合→米国共産党→ソ連



44

# 一つの仮説＝周恩来・ネルー平和5原則の起源としての1931-32年上海ゾルゲ団？



1954中印協定、平和5原則、バンドン会議  
1942蒋介石のインド訪問、ガンジー会談  
(中印抗日・抗英共同声明)  
(1937国崎定洞、チャット等露清死、  
スメドレーはネルーに手紙)



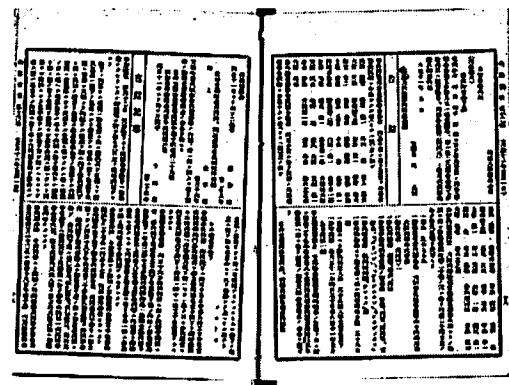
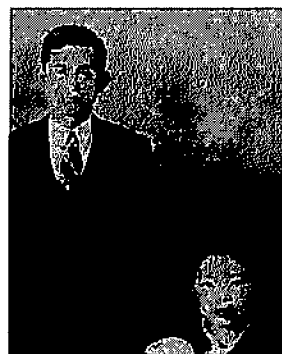
1934 スメドレー、チャット再会  
1932 周恩来、ゾルゲ、尾崎、スメドレー  
1930-31 反ナチベルリン革命的アジア人同盟  
(国崎定洞、千田是也、廖承志、成仿吾、王炳南、  
チャットパディヤ)



1929 ネルー、インド国民会議議長、  
1928 スメドレー、チャットと別れ中国へ、  
チャット、ネルーと文通継続  
1927 国際反帝同盟 (本部ベルリン、書記：ヴィ  
レントラアヘット、チャットパディヤ、ネルー、周  
恩来、宋慶齡、片山潜)

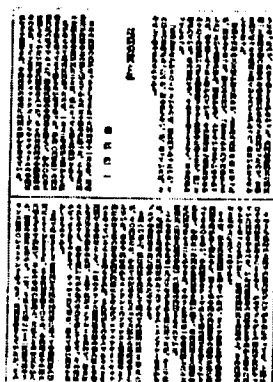
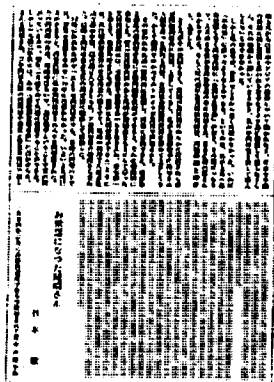
45

# 残された問題 ゾルゲと尾崎を結びつ けたアメリカ共産党日本人部 鬼頭銀一

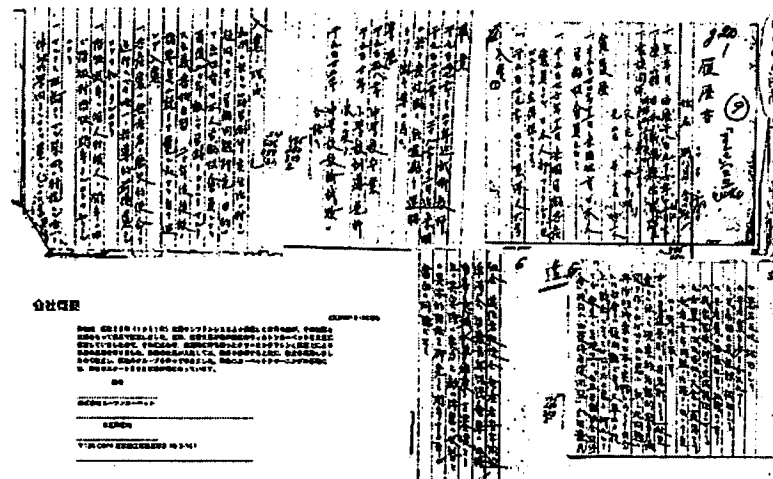


46

# 上海の尾崎の後継者？ 船越寿雄、堀江邑一、野沢房二 東亜同文書院グループ 安斉庫二、中西功、西里龍夫ら



47



宮城与徳を送り出した米国共産党  
ロイこと木元伝一、矢野務こと豊  
田令助実は佐渡出身将月令助

48  
(end)